

皆無だったのに対し、女子には少ないが、必ずいるといった結果になっている。

上記以外に期待すること。

「友達、けったいな人が多くておもしろそうである」
「大学生の官僚化、保守化の目立つ今日、旺盛な在野精神、批判精神と行動力をもった連中の集った珍しい学部である総科の中で、自分を鍛えてゆくこと」
「私達54年生の中から、ノーベル賞を取る人がでること」「体力作り」「プロポーズ大作戦に出たい」
「希望のコースへ、全員が行けること」「総科としての特色が強く出るようなカリキュラムの編成」
「学部が変わっているから、人間的に面白い人が多いのではないかと期待していたのだが…」「総科生を全員大学院へ入れること」「芸術関係についてもある程度詳しく学べるようにしてもらいたい」。

[3] 現在志望するコースとその志望理由。

(男子32名, 女子28名, 計60名の志望動向)

地域文化コース

男子7名, 女子13名, 計21名

(理由) 「興味がある」「他のコースに興味がない」
「文系だから」「文系の2つを選ぶ場合、社会文化はいやだから」「ヨーロッパ大陸に対する憧れと、語学の勉強のため」「外国語のエキスパート、及び広い視野を持つ国際人をめざすため」「適性、及び学問的知識の研究」「将来海外に進出したいから」
「長谷川さん、赤池さんがいるから」「にほんがいい、めんどくさいのでだるい(原文のまま)」「文化の研究をしたい」「ロシア研究を創ってほしい」。

社会文化コース

男子5名, 女子4名, 計9名

(理由) 「国際関係がやりたかったが、他学部では固定化、専門化された学問しかできないと思ったから」「社会に対する興味」「将来の職業のため」「個人と社会について考えたい」「複雑な現代社会の状況を少しでも理解するため」「人間性と人格をみがくため」。

情報行動科学コース

男子10名, 女子6名, 計16名

(理由) 「自分の専攻したい分野が総合的にできそうだから」「Ⅲ群で行動関係をやり、児童相談所につとめたい」「犯罪を中心とした社会病理学のできるところ(社文と重複)」「行動科学に興味がある」

「リフトか行動科学をやりたい」「コンピューターをやりたい」「人間行動の不可解さの原因の究明」
「数学方面をやりたい」「将来性と興味」「以前から心理をやると決めていた」「他に行きたいところがない」「心理学に興味があり、芸術方面に応用できそうだから」「しかし自分の能力を考えると、社文になるようだ」。

環境科学コース

男子8名, 女子4名, 計12名

(理由) 「社文では将来が難しく、情報ではコース決定にひっかりそうだし、よく見ると情報より面白そうなので」「物Ⅱをとっていないので、情報の数理は無理と思ったから」「Ⅳ群で理科の教職をとりたいたい」「理系の分野で現代の風潮にあい、時代の先端をゆく学問だから(情報と重複)」「自分にむいている」「興味がある」「理数が好きだから」
「地質関係をやりたかったが、広大理学部地学科はドツボだから(原文のまま)」

未定(考慮中)

男子2名, 女子1名, 計3名

この質問に対しては1年生の解答数が60名と、半数以下であるので、はっきりと各コースのばらつきを見ることはできないが、その理由をみると、非常にはっきりと自分の進路を考えている人もいる反面、あいまいな理由も少なくないことがわかる。まだ、各コースでどんなことをするのかよくわからないところが正直なところであろう。

[4] あなたは総合科学部の授業の組み方に対してどの程度満足していますか? この質問、「授業の組み方」というのが何をさすのかあいまいだったが、結果を見てみると

	男	女	計
1. 非常に満足	0	0	0
2. まあまあ満足	12	7	19
3. ふつう	17	4	21
4. やや不満	32	14	46
5. 失望じゃー	3	1	4

と、こういう具合に出て来た。

設問の問題として5の「失望じゃー」というのは、編集部は「非常に不満」という意味で書いたわけだが、失望と不満ではニュアンスが全く違っており、圧倒的に多かった「やや不満」という項も、希望一よりよくしようという願望あるうえでの不満だと、

編集者は期待する。

「その理由は？」という項を見てみよう。まず「まあまあ満足」とした人には

「いろんな分野の知識が断片的ではあるが得られ興味深い。」

「系統的とは言えないが、様々な分野の講義が聞ける。」

など「断片的」などと釘がささっているものの、一応「総合科学」性を評価している人が多かった。

逆に「やや不満」とした人の意見は、単なる時間割の組み方、学部やコースとしてのカリキュラムの組み方に別れた。

まず時間割について

「要望や必修科目、語学などと重なり、とりたい講義がとれない。」(特にコース相互間)

「他コースで受けたい授業があっても、実験などのために受けられなくなっている。」

「隔年開講が多い。」

「プロ通Ⅰは3クラス位つくるべきだ。」

などの意見が出たが、「とりたい授業が重なってとれない」というのが特に多かった。

カリキュラムに関しては

「プログラミング通論Ⅰを全コース必修にするには疑問がある。」

「法学(特に民法)系の講義が少ない。」

「専門外の授業をとることが決められているが、真剣にとりくめない。」

「環境科学コースでは必修科目が多く、他コースに比べ負担が大きい。」

「環境の選択必修科目が、物理・数学にかたよっており、生物・化学・地学が少ない。もっとわくを広げるか、無くするかしてほしい。」といったものであった。

そして

「全く総合科学的カリキュラムになっていない。」

などの意見が出た。

「ふつう」とした人の意見にも「総合科学」に関するものがあり、

「授業は単位をそろえるための形式的なものでしなく、自分の研究は自分でするしかないのでは。」

「授業の組み方というけれど、授業に対して受け身であってはいけない。自分でやっていく中で教官から自分に身になるものを盗むべきである。」

などの意見が出た。私たちは総合科学部へ入ってく

ると、なにか「総合科学」というきちんとした学問の体系が存在し、それに従って進めば「総合科学」ができると錯覚しがちであるが、もう一度考えなければならぬのが「自分」の大切さであると思う。総合科学部を生かすも殺すも、全ては私たち次第ということだ。

最後に先輩の教訓をひとつ加える。

「必修が少なく、自分の自由意志で、ほとんどの授業を選択できる点には満足、しかし自分の専攻分野に絶対必要な科目を取り忘れることがある。」(経験者は語る)

心すべきことだと思う。

[5] 現在、総科には4つのコースがありますが、そのことについてどう思われますか、又、単位の取得方法についてどう思われますか？

・コースについて

この質問は、4つのコースについての何が聞きたいのか明白ではないため、解答の方にもさまざまな種類のものがあつた。そこで、少し項目に分けて書くことにする。

① コースの定員について

「志望コースへ行けなくなる場合がある。」として「コースに定員を設けていることに問題がある。」という意見が多かった。又、「コース間のバランスがとりたければ、コース別募集にすればよい。」という意見も出ていたが、そうすると、入学時に予めこまかい専攻分野を決めておかななくてはならないわけで、一年間の猶予の意味がなくなるのであろう。とすると、学生が志望するコースへ全員が入れれば、文句ないわけだが、あるコースに学生が集中したりすると、教官数、設備などの問題から、十分な教育がなされえないという心配もでてくるわけであって、この問題は、一朝一夕にはいかない難しい問題であることがわかって。しかし、「学生としてはあくまで自分の志望するコースへ行きたい。」というのが当然である。

② コース決定について

コース決定の時期について

「コース変更の可能性を持たせた上で、コース決定は1年から行なうべきであると思う。」(2年男)

「コース決定は3年次にすればよい。」(それまでは全コース共通をとったりする) (1年男)

コース決定方法について

「1年の後半にコース選択の理由を書かせたり、

面接を行なったりして成績だけにたよるべきではない。」(3年男)

又、コースの選択方法については「1年時に各コースでどんなことをするのか、よくわからないので、きちんとしたガイダンスを開いたり、もっと、学生と教授とが接触すべきだ。」という意見が多かった。

③ 4つのコースについて

「コースを4つに限定せず、自由にやらせてほしい。」(5名)

「幅広いことが学際的なことではないと思うし、他にも色々なコースを作っては？」(4名)

「入試の時点でも、文・理系と2つに分かれているのだから、コースも文・理系2つに区分するだけで十分だと思う。総科の基本理念である広く深い教養を身につけるためには、やはり分野を細分化することには、大いに問題がありはしないか。」(3年男)

「4つのコースに分けてあるのには別に問題はない。」(16名)

上の理由としては、「あまり広い範囲のことを勉強しても一般教養の延長になって、実際に身につかないのではないか」ということだったが、それでも、「人数制限に問題がある」「スタッフの人数に差がある」「各コース間のつながりが希薄だ。」「もっと特徴があれば…」といった意見が聞かれた。又、「4つのコースそれぞれに特徴が違ってなかなかよいと思う」としながらも、それだけに「コースが学科になってしまうような気がする」といった意見も少なからずあった。

このように、4つのコースに分かれていることについての意見は種々雑多であったが、いきなり、こんな質問をしたところに無理があったようだ。又、「全く異なった学問領域を専攻している者同志が気軽に交流できる。コースとコースの間にあまり隔たりを感じない。」

という意見も少しあったが、概して、「現存する各コース間のつながりが希薄である」といった意見が主であった。「文系と理系とが完全に一致することは無理としても、これでは1学科の意味がない。」という意見も多かった。

その他の意見として次のようなものがあった。

「4つのコースに分けること自体には問題はないが、コース内で群に分けることは、非常にナンセンスである。群に分けることは、自由な選択を束縛することであり、またかつ、自分に興味

のない科目も選択必修であるが由、取らざるをえないことになる。また2年のうちに群を決定しなければならず、3年になって進路を変更しようと思っても、単位区別があるために容易にかわることができないという現状にとっても不満である。群は是非廃止すべきだと思います。」

(3年男)

「文系2つ、理系2つは、まあまあ妥当でしょうね。できれば、無所属コースなんてのがあればオモシロイんじゃないかな？単位も全くなくしてしまえばいい。結局、高等(下等)遊民としての大学生が認められている現在、それを期待して入ってくる者が多いのも現実で、まあ、どうしようもないですね。でも、いろんな価値を求めて入ってくるいろんな人間を受け入れ、それらの自由な活動のできる場としての、ゴミダメみたいな学部が一つくらいあってもオモシロイんじゃないか、と私は遊民としての立場から思うワケであります。」(3年男)

「コースによって分けるのではなく、学問をやる上で2本柱となる学問領域を決定することによって分けるというのはどうか？例えば、化学(or 物理)を基礎にして生物をやる群とか、数学を基礎にして地学をやるとか等である。そうすれば、そのコースに属しているというだけでどんな物の見方ができる学生かわかりやすいし、先生方も対応の仕方が適切になると思うし、また目標と基礎力も中途半端にならないと思うからである。」(4年男)

・単位について

「別に問題なし」(5名)

「教職に必要な単位を入れるときつくなる」(2名)
「必修科目がたくさんあって、自分が進む方向、自分の興味のない科目もとらなくては行けない」(3名)

「他学部の授業を取るのに色々制限がありすぎる」(3名)

「環境には指定の必修科目が多すぎる」(2名)
「自然分野で必修以外の科目を取ることはかなり難しい」(3名)

「実験など、他の講義より時間がかかるわりに、1単位しかないのはおかしい」(3名)

「他コースの専門12単位を自由選択の中に入れておかなければならないのはおかしい。本人の意志、積極性にまかすべきだ。」(2名)

「必修選択の単位数が多くて、他コースの聴講が難しい。自由選択の枠をひろげ、必修選択を少なくしてほしい。」(3年男)

「単位及び科目の選択の自由度はかなり保障されていると思うけれども、それを取る人(学生)とそれを取る人への案内(ガイダンス・一般教育)等の力量が自由?に値していないので、まだ大部分の人にとっては、無理矢理必修で科目を指定した方がましであるという状態だと思う。」(3年男)

「1年次に22単位という制限があり、そのヒマな癖がついてしまっていて、2年になってもどの程度時間割をつめるべきか迷ってしまった。この分では3年4年と忙しくなりそうだし、1年の時の単位の制限は良識に任せていらぬのではないかと思う。」(2年女)

「教授同士聞き比べてみようとすると単位の認定はされないわけであって…。単位取得にもっと自由が欲しい。」(2年男)

「このアンケートは、学際的、総合的研究にいやにこだわるけれど、総科の授業、又、単位の取得方法は、それを十分やれる状態になっていると思う。それをやるのは、総科ではなくて、各個人である。もっと各々の人が独自にこれやるんだということを見つけて、それを深めていきつつ、他の部門からのアプローチをやった方がいいのだ。大学はそこまでやってくれない。やるのはおれたちだ。」(2年男)

「136単位取得のために、その分を埋め合わせるのではなく、こうした研究は何単位必ず必要だからあるというのであるべきだ。」(3年男)

「文系のものが理系の科目を必修としてとらねばならないのは苦痛。」(3名)

「全コース共通授業のプロ通Iと現代思想を両方必修にするのはどうだろうか。強制してやらせるほどの内容かとも思う。」(3年男)

「単位数が多すぎる」(1年女)

「ひとつの講義によって得られる単位の量をもう少し減せばよい。」(2年男)

「総合科目が4単位しか認められないのは残念」(2年男)

以上、単位について色々書いてもらいました。必修科目が多すぎて、他に取りたい授業が取れないとか、取りたくない授業を必修で取られるといった意見が多かったようです。単位取得に対して、各

コースの制限が、自由に取りたい授業を取ることの障害になっているということであろうか。

[6]あなたは現在の総科をどんな学部と思われるか?

問いがあまりにも抽象的であったために、さまざまな答えが返ってきた。学部の雰囲気として、「学生はユニークな人が多い。」という意見が多かった。総合科学という学問体系が今まででなかったために、一人一人が抱く総科のイメージはバラバラであろうが、現在の総合科学部は「中途半端である。とらえどころがない。目的がはっきりしない。」と迷いが生じている。中でも「間口は広いが浅い学問しかできないのでは?」「いろいろな学問がバラバラに動いている。」「総合科学一学科ではあるが、各コースがバラバラでつながりがなく四学科あるようだ。」

「各コースが第2文学部、第2法経済学部、第2理学部に通ぎない」との指摘。総合科学部が目指している学際領域の研究がうまくいっていないとの批判が目立って多かった。だがこのような現状を認めながら、「無限の発展性を秘めた学部」と総科に対する期待も高い。

「望ましい総科のあり方」という質問に対して、前問に関連して「学際的研究ができる体制!」をつくりあげること、そのためには「現在の学部四年では無理、六年以上必要」との意見が主であった。

さて、今回のアンケート結果をみてどのように思われたでしょうか?新設学部で今年やっと6年目をむかえた総合科学部に、色々な問題があることは当然でしょう。しかし、このような問題を置き去りにするのではなく、教官だけに頼らず、我々学生からも色々考えるべきではないでしょうか。また設備、体制の改善をはかるのみではなく、我々一人一人が一生懸命に勉強してゆくことも大切なことでしょう。総科の発展も、我々一人一人の努力にかかっているのは言うまでもありません。また、1年生諸君について言うと、1年間の猶予を有効に利用することが必要でしょう。1年間目的なしにすごすのではなく、教官や先輩にあたってみたり、自分自身で勉強したりして、はやく、しかしあせることなく自分の勉強したいこと、自分のコースを選んで下さい。